

令和2年度防災・日本再生シンポジウムを開催しました。

福井大学では、令和2年10月31日(土)に防災・日本再生シンポジウム『日本一の原子力立地福井県における防災危機管理IX ～原子力災害時における避難について考える～』をオンライン方式で開催し、講師・スタッフ等含め、61名が参加しました。

このシンポジウムは、本学が東日本大震災、福島第一原子力発電所事故を機に関心が高まった「原子力防災」について、福井大学附属国際原子力工学研究所の立地自治体である福井県、敦賀市と密接に連携し、教育機関の立場で進めている活動の一環として、国立大学協会の支援を受け、平成24年度から開催しているものです。

第9回目となる今回は、新型コロナウイルス感染症で議論が噴出した災害時の『避難』を主なテーマとし、公立大学法人福島県立医科大学 医学部放射線健康管理学講座 教授 坪倉正治氏、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 量子医学・医療部門 高度被ばく医療センターグループリーダー 富永隆子氏、本学医学部医学部看護学科 教授 酒井明子氏、国立大学法人長崎大学原爆後障害医療研究所 放射線リスク制御部門 教授 高村昇氏の4名にご講演いただきました。

初めに本学理事・副学長の末信一朗から挨拶があった後、講演前半では、「原子力災害時の避難とそれに伴うリスクについてー福島県浜通りでの現場のデータからー」と題して坪倉先生から、次いで「新型コロナ禍での原子力災害対応ー新しい研修体系と人材育成ー」と題して、富永先生から、それぞれご講演いただきました。

途中、本学の学生や教員と参加者との交流の時間を設けた後、後半の部に移り、「福井県での新型コロナ感染症対応ー軽症者宿泊療養型施設での対応よりー」と題して酒井先生から、その後、「原子力災害からの復興と伝承:東日本大震災原子力災害伝承館の役割」と題して、高村先生からご講演いただきました。

今回は、コロナ禍の影響もあり初のオンラインでの開催となりましたが、実施後のアンケートでは「防災危機管理という福井県における関心度の高いテーマを、世界的にも大きな問題となっているコロナ禍の視点も交えて設定されたことは、とてもよかったと思う。」、「東日本大震災の記憶を風化させないためにも、このような取り組みは大変有意義だと思う。」等のご意見をいただきました。

また、中間部に設けた本学学生と聴講者の交流の時間は、「他の参加者と交流できて良かった。」、「学生がリーダーシップを発揮して良く頑張っていて感心した。」等、聴講者の方に大変好評でした。

原子力防災等に関する多様な活動や本学の教育研究活動について、聴講者の方に知っていただくとともに、貴重なご意見・ご提案をいただく場にもなり、大変有意義なシンポジウムとなりました。